

2022. 10. 9 (日) 使徒4:32~35

4:32 さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。

4:33 使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。

4:34 彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、

4:35 使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。

#### <説教>

初代教会の使徒ペテロとヨハネは、ユダヤ人の最高法院（サンヘドリン）からイエスの名によって語ることも教えることもしてはならないという命令を受けました。特にイエスの復活を宣べ伝えていることが祭司たち、サドカイ人たちの間で問題とされました。しかし二人は「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」と言ってその命令をはっきりと拒否しました。二人はサンヘドリンから重ねて脅されたうえで釈放されました。

釈放された二人は〈仲間のところ〉、つまり使徒たちのところ信仰者たちのところ、つまり教会に行つてすべてを報告しました(23)。その報告を聞いた人々も怯（ひる）むことなく〈心一つにして、神に向かって声をあげ〉(24)、神のみことばを大胆に語らせてくださいと、またイエスの名によって癒やしとするしと不思議を行わせてくださいと祈りました(29,30)。神はその祈りに応えて彼らを再び聖霊によって満たし、神のことばを大胆に語らせてくださったのでした(31)。

そのことに続いて記されている、本日の箇所(4:32-37)と同じような教会の様子は既に2章の終わりのところに書かれていました。〈信者となった人々はみな一つになって、一切のものを共有し、財産や所有物を売つては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。〉(2:44,43)と。その時からこの4章の時まではそんなに日にちがたっているとは思われませんが、その時には〈三千人ほどが仲間に加えられ〉(2:41)、今やペテロとヨハネの〈話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどに〉なっていました(4:4)。その〈信じた大勢の人々〉が〈心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた〉(32)のです。〈心と意思を一つにして〉となると、その〈信じた大勢の人々〉がまるで一人の人のようです。〈信じた〉とはもちろん主イエス・キリストを〈信じた〉ということですから、後に使徒パウロが「教会はキリストのからだである」(エペソ 1:23)と言うように、確かにこの〈大勢の人々〉は復活の主イエスの一つからだでした。〈使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし〉(33)とルカが続けて記しているように、〈心と意思を一つ〉とは復活の主イエスにあつての〈一つ〉であり、復活の主イエスを信じる信仰によって〈一つ〉だったのでした。また、〈一同は聖霊に満たされ〉(31)とありました。使徒パウロは後にこうも言います。〈もし、キリ

ストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。〉（ローマ 8:9）と。ですから、このとき彼らが〈自分が所有しているもの〉即ち〈共有していた〉ものとは本質的には何と言っても〈キリストの御霊〉であり、復活の主イエス・キリストでした。そして復活の主イエスを信じる信仰でした。ですから〈大きな恵みが彼ら全員の上にあった〉（33）で言う〈大きな恵み〉というのも、何よりも復活の主イエス・キリストであり、またキリストの御霊、聖霊のことだったとすることができます。ですから、ここに書かれているところの実際の生活は当然のことですが、正に「信仰生活」であり「教会生活」でした。単なる博愛精神や人道主義によるものではありませんでした。

さてその上で、しかし彼らの「信仰・教会生活」は「精神的」なもので終わらず、「物」や「金」のことも「信仰によって」考え、取り扱う生活でした。〈自分が所有しているもの〉についても、何が、どうすることが「神の御前に正しいかどうか、判断」していたということになります。それが、彼らは〈自分のものと言わず、すべてを共有していた〉ということです。それは何でもかんでも自分が持っているものを文字通りすべて売り払ったということではありません。それは、「これは自分だけのものだ」という利己心や「物・金」への執着心から解放されていたということです。「私の物はあなたのもの、みんなの物」という心と生活の態度だったということです。だから「みんなが経済的・物質的に同じ量を持っていて平等だった」ということではありません。〈彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。〉（34）とある通りです。お金や物を多く持っている人もいれば、少ない人もいました。収入の多い人もいれば少ない人もいました。ペテロも「金銀は私にはない。」と言っていました。けれども、たとえ収入が少なくても、金銀はなくても、〈宮に入る人たちから施しを求め〉なければ食べて行くことができない、生活できないような〈乏しい物〉は一人もいなかった、ということです。どうしてそんなことが可能だったのでしょうか。それは、〈地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった〉（34b,35）からです。既に触れたように 2 章 43,44 節にも同じようなことが書かれています。

さて、使徒であれその他の信じた大勢の人々であれ、このような生活ができたのはひとえに神の恵み、復活の主イエスの恵み、聖霊の恵みでした。〈使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証し、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。〉からです。特に使徒たちをして神のことばを語らせ、主イエスの名による癒やしとするしと不思議なわざを行わせて主イエスが生きて働いておられることを証させたもう恵み深い神への信頼、感謝と喜び。また使徒たち以外の者にも聖霊によって神のことば、イエスのことばを思い起こさせ大胆に語らせてくださる神への信頼、感謝と喜び。主イエスの復活によって「死んでも生きる」信仰を与えてくださった神への信頼、感謝と喜び。後にこれも使徒パウロが言うように、御子イエスとともにすべてのもの（精神的にも物質的にも）を自分たちに恵んでくださる（ローマ 8:32）恵み深い神への信頼、感謝と喜び。だれも（サンヘドリンのような権力者たちでさえも）自分たちに敵対できないほど自分たちの味方である神（ローマ 8:31）への信頼、感謝と喜び。サンヘドリン等の迫害によってたとえ生活に窮するようなことになっても、〈信じた大勢の人々〉即ち教会を通して、助け支え、生活に事欠くようなことにはなさらず、養ってくださる神への信頼、感謝と喜び。このようものがこのとき

の教会生活、信仰生活にありました。彼らは〈自分が所有しているもの〉のすべてが御子イエスとともに恵み深い神から与えられたものだとなりました。それで、もはやそれを〈自分のもの〉とは言いませんでした。いや言えなかったというべきでしょう。彼らは自分が持っているものを隣人のために使えば自分のための取り分がなくなる、少なくなる、自分が損をする、もったいないといったような利己心、恐れから癒やされ解放されたのです。

それは金や物に執念深い私たち人間の本性を考えると、あの生まれつき足の不自由だった人を癒やし、立たせ、神を賛美するほどにした奇跡に勝るとも劣らない、主イエス・キリストの名による癒やし、しるし、不思議というべき神のみわざでした。そのような神のみわざに彼らは復活の主イエスへの信仰のうちに一つになって与ったのです。私たちにも同じ神のあわれみ、お恵みがありますように願い、祈り乞い求めます。